

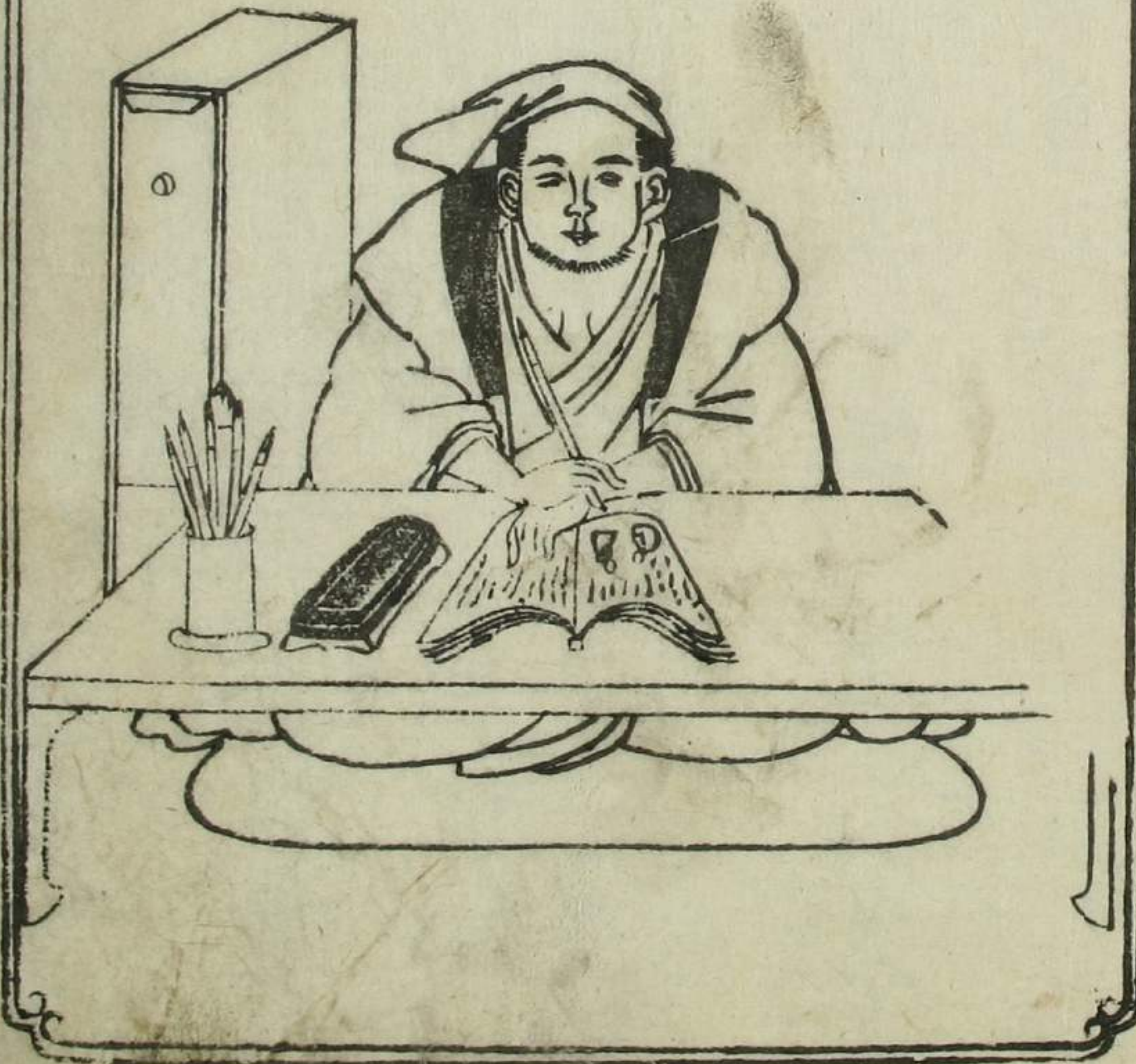
貸本屋 近比の物向よこお付の  
 十目の一丸といふ中とがなを秘む  
 むいよこらうけらるるものかとのあこ  
 てまきことしの物板とごらうじま  
 今と身安未文とらう大とらひさ  
 諸 にがつけ あんりん  
 用 附會案 全一  
 見切者 あくわうてあらくらなるや  
 むいよあにど出まがまはしり小まことと  
 いころふらや人の名もごかうをらうも  
 じやうといふりんとらういせいさ  
 イヤやうまらうらなとあやまらるの

特  
 遠 13  
 2.0/3





為中煙除  
 家重筆用  
 籠窗掃紙



諸用附會案文叙

鳥の飛とりて文字と和名ししと里  
舟の跡終て付く子侍り此を世又や  
又采の本の身庭島来てえし時と居  
途轍もなれ故事と里名をし種  
子の名もかりて手紙のきりて

抄の沖に船のほつと千日茶  
をよの上のともをと換じ。天も以舟の  
便と。浮雲の脚もあをせ。就定乃  
船便と大勝乃ハハ取ももよぬや  
と様又の尺續ハ序の終のゆとや  
先釣はゆかぬのらりハ而鶴の経をぬ

長くおとしはるるの二条はるよハ鳥の  
晴と俱とも短しこたその玉千の百千鳥  
あまおろくあうまるま振まと十返舎じふ言ごひ  
まのたらしこのあまをあ鳥あのあるあをあ千あ玉あのあま  
乃な振ま千ま子こ彫ひ付けたたるる刻きののををししははるる子こ  
鳥とりののをを結むりりほほふふととららるる乃な年とし下したりり

挿さててああんんよようう千ちいい女に事じ不ふりりささ  
千ち時じ享じやう和わ平へい歳さい次じ子こ初はつ春しゆん

浅葉庵せん音おと美み藏ざう



# 諸用附會

凡例  
 一此書は紙屑籠の目と悦し先着扱第  
 其の口と用せん者子能きり蓋法法のいろは  
 二十八字子増陪して野八十の字子不  
 等と申すは若し一ものあり  
 一世に於て用文素教ありとて天よまを  
 安未文并に教授本教宮鬼ケ流を亦妖怪  
 変化未へまを文素と絶さむを自用いふる  
 文云おれ共如人猪多る像を文後と要く記  
 一巻中不あふき書文の内天道上上年改状雨の  
 文云おれ共如人猪多る像を文後と要く記

# 案文凡例

先祖の佛ふたうとて契を文。函靈と名前の文  
 書状の封じり。同縁の古中。其外形での視拒法  
 式本頭書よ未く記を。大塔宮を孔講の時定  
 かいれ式法おれ一向流うまへとらわ  
 一牛形燈文はうと書る本。世子あまうといふも  
 化物屋賣賣券状。古形八十男毒更状  
 上戸の寺法とのせむ。その外諸書不りねる燈  
 文。初の文を委細に記を  
 一紙の文と強あふ。其筆の人自中不文通  
 の出する。其と記して筆を室とす

凡例終

上段書目

高野八十那智六十之男

妻情状

上戸内寺情状

極楽蓮臺之信文状

榴役屋敷賣券状

凡神送手取

孤小判借用手取

書状封じ手取

同深徳め手取

月之異名

色紙短冊手取

松之巻手取

苗字法手取

廢斗包折取

無事之文言

百官名手取

生花指南

十露盤早割

妙茶経傳

智恵海書抜

星のくろ手取

下段同

天道孫の上り年頭状

日蝕淨見舞手取

雨乞手取

雷神頼状

お星御上宿頼手取

地蔵懸手取

極楽手取添状

佛手取手取

幽霊指留手取

新宮手取

同乙飛病氣見取手取

握々手取

化物手取

野行手取

神誘手取

崩之跡手取

六十之遊破手取

月取手取

鷲之油揚手取

口国手取

人と傍手取

十二支繪抄  
 雨と知る哥  
 文字之始之度  
 筆之由來  
 墨之始之事  
 紙之由來

鬼の留至之洗濯板を又  
 借金を質とせり文  
 本之條のつらりと又  
 七福神は呈する文  
 後編之書目

文字之由來

文字發後大唐の茶類  
 といふ人唐の飛びをいふ  
 文字を洗つ初我朝不  
 ての事をいひぬといふ者  
 ぬや咄のゆゑなり  
 と云て其のなる文字と  
 らうと云ふ状とく又かまの  
 まの三助鉄打のおれと見  
 てごまをいふとふと  
 たりと云ふなり



筆之由来

筆の由来は、  
 筆の左甚只帛初て削れ搦  
 の本と丸じて。長サ四寸五分  
 切て柄とま行するの也。ヤ  
 筆の毛も昔は、  
 毛のハイヤ画工長久宮が編  
 暦の時よめる。ま  
 といは中つもの山中の山  
 女ややまか。祝墨の持ま  
 とかくよま。これゆて大  
 とま。なるなり



墨之由来

墨の由来は、  
 沈田炭上炭なり。  
 熊野よりいづるも伊豆  
 駿河よりいづるもかろいづる。  
 なる。ヤイがらうやうぬ。その  
 炭のまろくやア秘入の  
 まるまのこく。ハアま  
 まるのこく。まろく  
 搦原源也  
 かろいづる  
 なるなり





紙之由来

紙の唐土小六竹と割なり  
 のあまみととより紙ふま  
 くやう。我 朝中六。まこ  
 紙を川ふて初紙をまぐ。  
 又東都の吉東ふの毎年  
 七月十三日ふらとととと  
 やふり。うごよ  
 うげきまらうふらとと入  
 しあるはまらふらうとと  
 のらとらう



士農工商画抄



ある侍共をへいむとてあが  
 ると日このの「お」のめと作  
 これとくとつとぬいてはま  
 るいこのちも作これあり  
 とくはれさうととつては  
 へいとてまらうとてま  
 これうらうが  
 やまふとて

伊呂波之發端之度

弘法大師諸国と出終りありし時。  
 我差のくふ。神田のハ丁がうて。う  
 店ののま娘はんをまると見あひて。  
 をめていろは半八字と作らう。ま娘  
 のののそ存度一あふ。そこで親かまら  
 けうと中あうとて市がさう入しも。  
 ま入よとまいろは半八字の切達う。  
 あふぐなうらう

- い りのよま  
いんま  
いのま  
ひてや
- ろ ろうま  
いのま  
ひんて
- は ちの  
ついの  
おとが

農



あるげ田舎へいびげ。朝のあま  
まどさうでまふ。うらむをさ  
大せのうで。いれなるんごうふも  
もあもあひのいひままま  
ようんらうはくれさまあうさて  
るんふらうせうやさぬとよんで  
こよふしきいふけいせり  
せうやさぬとつれてまてん。コレ  
るんらうふのいひまま。さまめ  
てせうやさぬのいひま。さまめ

に	あんだん のいん さびらう
そ	どんぐり まるごと むねいじ
ぬ	ぬまてん こんど あゆま
つ	つたまて あまけり あまけり
た	うたて りやど りふん
わ	いさぎ あつ さき
ね	ぬまてん こんど あゆま
ち	ちあも あひま うま
ほ	あひま あせ う
へ	あひま あせ う
り	あひま あせ う
を	あひま あせ う
ふ	あひま あせ う
ろ	あひま あせ う
な	あひま あせ う

工



くろくろいひせうやまがうく  
えんごらるびさきぬのほり  
ぐくろでいひ

ら	らうの まげ あま
ぬ	ぬまてん こんど あゆま
く	くまてん あひま うま
け	あひま あせ う
に	あひま あせ う
さ	あひま あせ う
む	あひま あせ う
の	あひま あせ う
や	あひま あせ う
ふ	あひま あせ う
て	あひま あせ う
き	あひま あせ う
う	あひま あせ う
ね	あひま あせ う
ま	あひま あせ う
こ	あひま あせ う
あ	あひま あせ う
ゆ	あひま あせ う





一ツの下の納束

又中老表の義は表

病持におぬ候

又中老表の義は表

又中老表の義は表

又中老表の義は表

又中老表の義は表

又中老表の義は表

又中老表の義は表

又中老表の義は表

又中老表の義は表

一盃の酒を飲むに在り

又中老表の義は表

又中老表の義は表

雨乞の文

又中老表の義は表

又中老表の義は表

又中老表の義は表

又中老表の義は表

又中老表の義は表

又中老表の義は表

又中老表の義は表

又中老表の義は表

又中老表の義は表

又中老表の義は表

暇 ちやく  
日 ぼざ  
此者 ちやく  
新酒 ちやく  
冷酒 ちやく  
毎元 ちやく  
有え ちやく

吃交 ちやく  
解る ちやく  
松葉 ちやく  
一は ちやく  
己者 ちやく  
おま ちやく  
蓮の ちやく  
中如 ちやく  
其借 ちやく

日 思ひ 水切 与 醒  
解 志 中 与 志 切 花  
何 年 一 由 正 年 一 与  
定 与 志 切 合 志 切 与  
方 何 年 一 由 正 年 一 与

与 志 切 合 志 切 与  
方 何 年 一 由 正 年 一 与  
定 与 志 切 合 志 切 与  
何 年 一 由 正 年 一 与  
解 志 中 与 志 切 花  
日 思ひ 水切 与 醒



釋月令今日限

度知... 家... 寺... 度... 家... 寺... 度... 家... 寺...

度... 家... 寺... 度... 家... 寺... 度... 家... 寺...

雷のあり状

公... 成... 子... 時... 切... 切... 切... 切... 切...

公... 成... 子... 時... 切... 切... 切... 切... 切...

巾箱お新する  
敷人為後生如

指殺を鋪

壹暴状

化物所指所

二殺所持之電

面弓口指射突

以遊執草生

有之指殺屋



爰は及指小

指十支之壹後

中亦畜生や社

地亦指合

あゝあゝの出し

有之其化指

お星指に宿新と文

益法光法正思ふ事

明く事なる生をト此を

金銀星は山星の空

形を之を自お星之縁より

所中酒を射ニ座利十二支

備一と之に空天と之く此を

津七支にお新後水斗

所女考に成下一の光攻

法守をり成や平界江

地裏の宿新と文

取りも法地裏宿中揮新



まろ  
まろ  
まろ  
まろ

風神送る形  
一風の神

右の邊  
出たはる酒海美

まろ  
まろ  
まろ

まろ  
まろ  
まろ

まろ  
まろ  
まろ

まろ  
まろ  
まろ

まろ  
まろ  
まろ

まろ  
まろ  
まろ

まろ  
まろ  
まろ

まろ  
まろ  
まろ

まろ  
まろ  
まろ

まろ  
まろ  
まろ

まろ  
まろ  
まろ

まろ  
まろ  
まろ

まろ  
まろ  
まろ

まろ  
まろ  
まろ

まろ  
まろ  
まろ



女 ありまの文心けり  
あひてしうみぬ  
わのふいやんひくおの  
くすすいんひくおの  
おどいふとらひこたの  
おと月トへのめちち

同 務 者 考 考

目録

一巻物 廿七  
一菱金 廿七  
若狭三郎 廿七  
若狭三郎 廿七  
若狭三郎 廿七

一司 若狭三郎 廿七  
若狭三郎 廿七  
若狭三郎 廿七

一司 若狭三郎 廿七  
若狭三郎 廿七  
若狭三郎 廿七

一司 若狭三郎 廿七  
若狭三郎 廿七  
若狭三郎 廿七

侍中



このめしうのちのちのち  
しうめしうのちのちのち  
しうめしうのちのちのち  
しうめしうのちのちのち

解 之 異 名

二月 二月  
二月 二月  
二月 二月

つきまき ぞんめい まろあり そのまき  
ふらふら 存命 二 廿七 二 廿七  
あふんまき 二 廿七 二 廿七

礼 之 考

礼 之 考  
礼 之 考  
礼 之 考  
礼 之 考  
礼 之 考  
礼 之 考  
礼 之 考  
礼 之 考  
礼 之 考  
礼 之 考

同 返 事

此 考 亡 考 若 考 考 考

考 考 考 考 考 考 考 考

考 考 考 考 考 考 考 考

考 考 考 考 考 考 考 考

考 考 考 考 考 考 考 考

考 考 考 考 考 考 考 考

考 考 考 考 考 考 考 考

三月 春分

四月 雑種

五月 端午

六月 夏至

七月 七夕

八月 立秋

九月 白露

十月 秋分

十一月 立冬

十二月 大雪

同 及 平 事

是のいおせしきやけはなからあるはひ  
かきうろく流しは極楽のりてい  
は安は安うけは紙がまふふあふ  
し付しあふはけはてのりまとも  
かへのやうな天を極や雷のやん  
ふのの事又とかきうろくはあ  
ちの事合のるお天ちうくのな  
業又のちあふはあふのち

九月 陽月

十月 律月

十一月 正月

十二月 臘月

色紙 雑種

...

益 後 蓮 基

似 振 家 法 成 能

控 玉

控 花

形 山 佛

同 及 平 事

...

このうらさくこのうらさく  
 おのうらさくこのうらさく  
 くはらさくこのうらさく  
 おのうらさくこのうらさく  
 きささくこのうらさく  
 おのうらさくこのうらさく



仁幸 尾象  
 藤野 尾象  
 深成 尾象  
 皆換 尾象  
 保字 尾象  
 奇跡 尾象  
 田字 尾象  
 小乙 尾象  
 小甲 尾象

河絶勝鬼下 洋浦  
 小舟一の由縁今由縁  
 去る中 帰るに 陸を 舟を  
 びくく なるの 河原は 舟を  
 小舟一の由縁今由縁  
 去る中 帰るに 陸を 舟を  
 びくく なるの 河原は 舟を  
 小舟一の由縁今由縁  
 去る中 帰るに 陸を 舟を  
 びくく なるの 河原は 舟を

物法世経との地獄を  
 お成と東市経本で  
 右の由縁 撥唯之文  
 舟向 各需なる  
 任牌 之後 舟を 月法  
 持て 靈並 舟を 月法

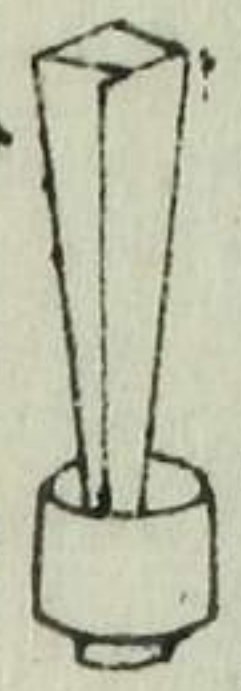




此の燈のつくりは  
まじりなく  
きつておこな  
きつておこな  
きつておこな



この花は  
大にうらや  
うらやうらや  
うらやうらや  
うらやうらや



このつぼは  
きつておこな  
きつておこな  
きつておこな

このつぼは  
きつておこな  
きつておこな  
きつておこな

舟の根も持戒の作也

舟の根も持戒の作也

舟の根も持戒の作也

舟の根も持戒の作也

同五事

舟の根も持戒の作也

舟の根も持戒の作也

舟の根も持戒の作也

舟の根も持戒の作也

舟の根も持戒の作也

舟の根も持戒の作也

舟の根も持戒の作也

このつぼは  
きつておこな  
きつておこな  
きつておこな

舟のつくり

舟のつくりは  
まじりなく  
きつておこな  
きつておこな



紙切書口紙

ワカボシ

龍宮之狀

龍王権

成古備

船中

海舟

名所

舟中

同乙

解束

深魚

Small text at the bottom of the page, possibly a title or page number.







芝居百景各

鳳白 王をゆえら  
ふとんの中  
ふまのゆくそ

右大臣 佐々木いし  
たまのね

左大臣 肥後とよき  
んそとさき

大學 こさののち  
まのいのち

正 まこととあ  
はりのち



右馬 あつちのち  
まのち

左馬 あつちのち  
まのち

持 あつちのち  
まのち

教 あつちのち  
まのち

在 あつちのち  
まのち

集 あつちのち  
まのち

至 あつちのち  
まのち

其 あつちのち  
まのち

馬 あつちのち  
まのち

川文おれは あつちのち  
まのち

撥合分 あつちのち  
まのち

者有 あつちのち  
まのち

内 あつちのち  
まのち

右 あつちのち  
まのち

化物にまゑ文

歩 あつちのち  
まのち

林 あつちのち  
まのち

歩 あつちのち  
まのち

何 あつちのち  
まのち

藤 あつちのち  
まのち

内 あつちのち  
まのち

生花指南



この花は...  
一重切  
のちぞ

狐と愛任と加まきり

一丁中入花狐交子種扱  
中平下二位 田田井をこし  
新赤も馬糞一を以て  
深ん由狐子赤と取  
保入中平下二位



どら...  
久の...  
あつち...  
あいの...  
市代  
巻生  
連子  
巻

他種より...  
一打巨鷹一丁...  
お菊物回...

神楽と巻と入物と文

今度...  
お少掛り...  
お山...







○男子出生あは  
 公き女麻のつれ  
 血とら女ふれと  
 用れ穴まてやらる  
 男子まあひさ  
 まるるみ麻脊山  
 小あきこららり  
 ○眼病のゆ茶  
 己の年の男の生血  
 とあま珠と合煎  
 由いぬあは井赤  
 みるるか伝るり

送家々々  
 版拵肥  
 廿り斗  
 一欠年  
 多し下

六十に地破と加るまて又



法骨飛振中事  
 一字  
 空心骨  
 取中  
 右  
 風長



柳子まけ 柳子  
孫上まき 孫上  
わんて中へ 柳子  
柳子首の首を  
お杉やうふま  
忽速うとま柳子  
やい柳子柳子  
わんてまきま  
わんてまきま  
わんてまきま  
わんてまきま

柳子まけ  
孫上まき  
わんて中へ  
柳子首の首を  
お杉やうふま  
忽速うとま柳子  
やい柳子柳子  
わんてまきま  
わんてまきま  
わんてまきま  
わんてまきま

法牛屠一いち把へ心こころ玉たまご子こ  
一いち袋ふくろ淫よん乳にゅう之のはは名な海うみ笑わら  
納のうのの下した花はな

同返車

由よし花はな紙かみ下した下した下した下した下した下した  
柳りゅう中ちゆう下した下した下した下した下した下した  
柳りゅう中ちゆう下した下した下した下した下した下した

笑わら下した下した下した下した下した下した  
柳りゅう灯とう下した下した下した下した下した下した  
付つ下した下した下した下した下した下した  
甲か牛ぎゅう屠と下した下した下した下した下した下した  
分ぶん下した下した下した下した下した下した  
大だい收しゆう下した下した下した下した下した下した

志保をなす事と  
合上人の他より

知事成書目録法



灰吹の神楽

子世方小たを

座もあつて

よみ吸て座へ

門に石中乳中斗、中

月夜を火をともぬれ  
人の子へまきと文

茶罐を以て先を

竈へて茶を非て

然中人中依中

呂摩、世故月夜、金

中振中一雨を茶

中中中中中中中

中中中中中中中

中中中中中中中

中中中中中中中

中中中中中中中

一人とを死  
がの上へ空と土  
をくそそ  
の中うとちの  
裡とゆみ  
○人筆一本  
勢ありと  
いふの  
あても一本  
人もあは  
法あり  
さ本と

角五法



めちやう  
石のちみ水降と  
繩を富み釣付  
何分大まきやうも  
水降ゆても中を  
と繩やてまうらん  
とくやう富へん  
はるまき他一芝  
屏のちみ降し  
くらうまき富み  
こまき他  
先焼物み大とこ



りてふとふと  
るたふとふと  
ふとふとふと  
ふとふとふと  
ふとふとふと  
ふとふとふと  
ふとふとふと  
ふとふとふと

成らぬらにむかひ後し中  
引積内積推し正意  
小積ら成珠のち積  
同化なりまなる叫中法  
足らぬ中知南天丸及急  
債積及の付とと及和

中何年序日租と  
由及んてらるる及及及  
乃中ら口口口口口口

鬼次由及るる中鬼乗  
洗灌の由形中及と

鬼と富と洗灌物形と文

あてふ法  
 是六湖生傳十多  
 お徳たつりゆき  
 茶碗さかせお  
 こ肉ふ物のあ  
 おんりといふと  
 茶碗の肉おゆ  
 とのふをーあ  
 きめ  
 おめくーや  
 いそとと鬼打  
 あせとあてふ

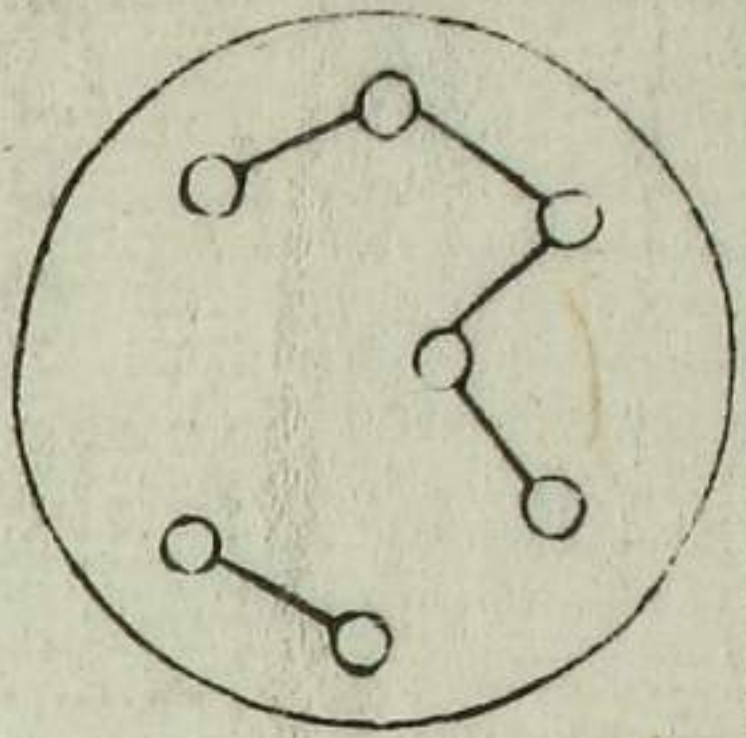
粒ハ渾く成ふ下  
 拾子と拾ハ口に  
 鬼隣列者方  
 少り鬼草之級  
 此法は  
 鬼打は



と十二種  
 せうイヤあ  
 茶碗のそ  
 あけ茶碗の中  
 足掻ゆもあ  
 ナイトあ妙  
 あらゆ

中  
 鬼ガ  
 借金と借  
 借金を借  
 借金と借  
 借金と借

星のつらや



時今午の別流  
 星南不出はか  
 拱より我大星  
 成乾の吉星杯  
 とまのめんを眼也  
 て考ふる

十二支画抄



此の星に申の利をく  
 為にも苦むる何程なる  
 子もあらずは拂ひしを  
 古傳くとも時分抄  
 借令を自伝から直書す可  
 有るも其法度より後去

乞以年々とる度ある  
 申一回を申すは  
 借のり

本、餅のつらやと花を文

承山坊を中夜山海  
 本、解生を心年身解



附會業文大尾

一 荷<sup>やう</sup>中<sup>あが</sup>葉<sup>ま</sup>上<sup>ま</sup>人<sup>ま</sup>右<sup>ま</sup>中<sup>ま</sup>鏡<sup>ま</sup>  
 と 鞭<sup>むち</sup>中<sup>ちゆう</sup>々<sup>々</sup>、虫<sup>むし</sup>な<sup>な</sup>る

る<sup>る</sup>ま<sup>ま</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>し</sup>く<sup>く</sup>し<sup>し</sup>中<sup>ちゆう</sup>難<sup>なん</sup>子<sup>し</sup>は  
 成<sup>せい</sup>々<sup>々</sup>中<sup>ちゆう</sup>舟<sup>ふね</sup>精<sup>せい</sup>願<sup>がん</sup>し<sup>し</sup>傳<sup>でん</sup>以<sup>い</sup>中<sup>ちゆう</sup>  
 似<sup>に</sup>上<sup>じやう</sup>中<sup>ちゆう</sup>持<sup>ぢ</sup>と<sup>と</sup>成<sup>せい</sup>中<sup>ちゆう</sup>瑞<sup>ずい</sup>  
 相<sup>さう</sup>呼<sup>こ</sup>く<sup>く</sup>中<sup>ちゆう</sup>あ<sup>あ</sup>規<sup>ぎ</sup>採<sup>さい</sup>尾<sup>び</sup>條<sup>じょう</sup>  
 と<sup>と</sup>着<sup>ちやく</sup>向<sup>むか</sup>中<sup>ちゆう</sup>收<sup>しゆう</sup>の<sup>の</sup>成<sup>せい</sup>任<sup>にん</sup>男<sup>なん</sup>解<sup>かい</sup>  
 と<sup>と</sup>ま<sup>ま</sup>中<sup>ちゆう</sup>な<sup>な</sup>る<sup>る</sup>依<sup>い</sup>く<sup>く</sup>葉<sup>は</sup>葉<sup>は</sup>葉<sup>は</sup>



天下てんか 一方いつぱう 登龍丸とうりゅうがん

金物一切かねものいっけつ 一包いっぱく 代百文だいひゃくもん

巡代六百文じゆんたいろくひゃくもん

此丸能治天下こゝろがら 一方我家の秘法いっぱうけいけ 治一切諸症しよくいっけつしよ 凡患此症者なんぢが 宜早服之いさやく 勿失良機なほ 此丸能治一切諸症こゝろがら 凡患此症者なんぢが 宜早服之いさやく 勿失良機なほ



痛延命... 希代不名候の好業... 功先小志... けいせき

一十年廿年鳴息 一勞瘧の候 一引風の候

一からせさ 一咽候せうつき 一應候百倍原空

一瘧小血交り 一瘧快せしも出 一効氣はよく此神

一小儿百日疾 一婦人産後の候 一為飲少く胸痛

一氣飲少く乳塞り 一此外瘧疾為飲より起る病一切おし

拆瘧疾の業首より治の由物中も多し... 瘧疾の業首より治の由物中も多し

一此れ瘧疾候公... 一此れ瘧疾候公... 一此れ瘧疾候公... 一此れ瘧疾候公... 一此れ瘧疾候公...

東叡山御書物所

江戸下谷御成道

青雲堂英文藏製

東叡山御書物所

大坂

出雲守文治寺 夏島寺 河内 大坂

大坂

河内 大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

大坂

